

作業部会報告

“教育・子育て・国際交流”部会

＜企画案＞

基本理念

- 社会のグローバル化・ボーダーレス化
- 学びに対する意欲・関心の低下
- 格差社会の進行
- いじめ等の諸問題



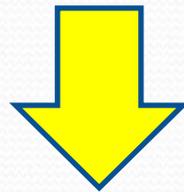
- 自らの考えをしっかりと持ち、他者へ伝えられる
- 自分と他者との違いを理解し、受け入れる



- 次世代を担う子どもに“夢”のある政策提言を

次世代の子どもに求められるスキル

- 自分の意思・意見をしっかり持ち、表現できる。
- 異なる文化・伝統を理解し、敬意を持つ。
- 自国の文化・伝統をしっかりと理解し、伝えられる。



国際化 = 英語能力 といった従来の安易な発想ではなく

- 本当に必要な能力の向上
- 専門性のあるスキルを身につける

自分と違うことを認めることがいじめ撲滅にもつながる

理念達成に向けた提言

①小中学校での国際交流プログラム

英語授業に限らず様々な授業で世界を感じる

②“TERAKOYA”（仮称）の設置

ホンモノを知り、自ら考え、発言する機会を
積み

学びの興味を引き出す

③ボランティアグループの創設

“ボランティアをしたい人”と“人手が欲しい
人”

をつなぐ垣根の低いグループ

①小中学校での国際交流プログラム

- 学校側もアイデアを出し、教科書や映像では体験できない経験を
- 衣装、料理、遊びなど体験型に
- 形作られた“国際交流授業”ではなく柔軟な発想を



押し付けられたプログラムではなく
学校・国際交流センター双方が共に考え
共に作り上げたプログラムを

運営上のパートナー

- 異文化理解プログラムの実績
- 大使館・領事館等関係機関とのパイプ
- 大阪市における国際交流の拠点
- 天王寺区の資産



- 大阪国際交流センターの協力

Win-Winの関係

子ども・保護者

支持・関心

国際交流体験

大阪国際交流センター

各小中学校

留学生などの派遣

期待される効果

- 英語圏のみならず中東やアジアの留学生・大使館員と
交流することにより、異文化を肌で感じる
- 他者との違いを認め、受け入れる土壌を養うこと
- 外国人に対する苦手意識を少しでも和らげる
- 教科書や映像では感じ取れない“リアル”さを体感

運営上必要な経費

- 留学生等への謝礼・交通費
- お菓子・衣装等準備費



- 留学生数名の場合、費用は1～2万円程度
- 学校側にも応分の費用負担（約5000円）をお願いする

※小学校×8校、中学校×3校、×年4回＝約66万円

②“TERAKOYA”の創設

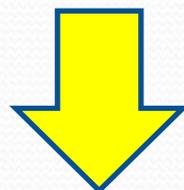
- 色々な学習の入り口を作り、子ども達が将来的に何かに特化して学んでいくことを最終目標とする
- 公教育では学べない“ホンモノ”を体験する機会を提供



- テーマに沿った意見発表、ディスカッションを行う
“天王寺こども討論教室”
- 教科書の世界と、本当の世界は = (イコール) なのか？を考えるべく体験型講座となる
“天王寺こどもアンバサダー (外交官) 会議”

学校・塾との棲み分け

- 文科省の学習指導要領により、公教育として、すべての生徒に広く、差のない教育を行う“学校”。
- サービス業として、顧客である子ども及び保護者の求める教育を提供する“塾”。



どちらにも属さない分野にこそ“個性の卵”がある

- 学校では実施できない、所謂“タブー”なテーマ
- その道のプロによる指導

基本的な考え方

- 自分の意思・意見をしっかりと持ち、表現できる。



様々なテーマについて考え、自らの意見を発表。→将来的にはディベーター

- 異なる文化・^{ト△}伝統を理解し、敬意を持つ。



様々な国・地域の方と触れ合い、文化・伝統を直接学ぶ

- 自国の文化・伝統をしっかりと理解し、伝えられる。



日本が持つ文化・伝統を体験し、まずは己を知る

スキルを身に着けるために

ディベート 力

- 自分の意思をしつかり持ち、相手に伝える必要性を考える。
- 議論する経験を積むことで、自分自身に自信を持つ。
- テーマを与えられることで自ら考え、調べる必要性を認識する。

異文化理解

- 英語圏に限らず様々な国の人と触れ合う。
- 教科書やテレビ等の映像ではなく、自らの目で、肌で感じる。
- 異文化を、単に異なる点だけに注目するのではなく、成立過程を知ることによって本当の意味を知る。

日本を知る

- 自国において長年培われてきた文化・伝統を体験する。
- 世界の人たちに、日本の文化・伝統を伝えることでお互いを理解する。
- 文化・伝統を継承する必要性を考える。

基本的な運営方法

- ターゲットは、基本的には小学生～高校生。
(ただし、強い意志と保護者の理解が不可欠)
- 参加者募集は区の広報媒体はもちろんのこと、区内及び周辺の公立・私立・国立学校へ直接呼びかけ。
- 参加費は原則ワンコイン（¥500）を想定。
※参加者はイベント保険に加入
ただし、大阪市のボランティア活動保険の
認定
が受けられればそちらで対応
- 当初は毎月1回、討論教室・アンバサダー会議を交互に実施

継続的な事業となるように

- 継続的な講座受講を促す為、一定の講座を修了するとステージがあがる等、子どもの興味を引くシステムを検討。

(ex:外交官→領事→公使→大使など区長が“任命”)

- 広く門戸を開き続ける為、行政・政治が深く入り込み過ぎないように注意し、また、偏った内容とならないよう配慮が必要。
- 区役所はあくまで窓口徹する。
- 将来的には、民間からの持ち込み企画にも門戸を閉ざさない。

実施案①

天王寺こども討論教室

- 「国連は必要か（世界は平和になったのか？）」

講師 元国連職員

- 「勉強はなぜするのか？」

様々な年代の意見を聞いたう

えで考える

- 「刑務所とは・国際化と外国人犯罪」

刑務所見学を実施した

うえで考える

- 講師の話聞いたうえで、一人一人が自分の意見を発表し、表現する機会を与える。

実施案②

- 天王寺子どもアンバサダー会議
 - 「ハンガーバンクット」 貧富の格差を体験する
 - 「祭りで知る世界の文化」
 - 「世界のお菓子」 総領事夫人など
- 教科書やテレビ等の映像ではなく、それぞれが自らの目で、肌で世界を感じ、知ることにより“本当の世界”を知る。

運営上必要な経費

- 講師費・・・謝礼・交通費等。（市の規定に準ずる）
- 人件費・・・区役所にはあくまで窓口にて徹してもらう。

会場までの引率を行わない。

当日の運営は必要最低限の人員で行う。

- 会場費・・・国際交流センターと共催の道を探り、
会場費

を圧縮する。ただし、マイク等の付帯設備費

課題

- 運営スタッフの確保。
- 参加者の年齢にバラツキが出る。
- 参加費以外に必要な経費（材料費など）を参加者から追加で徴収するのか。
- 参加希望者多数の場合、どのように調整するのか。
- 運営経費は区が予算を組むのか？スポンサーを入れるのか？

③ボランティアグループの創設

- ボランティアをしたい学生
- ボランティアをしたい留学生
- ボランティアをしたいシニア
- ボランティアをしたいあらゆる世代



- 国際交流を旗印にグループを創設
- 会員相互の交流を活発にし、垣根の低いボランティアグループを創設

地域の担い手として

- 学校現場でも障がいを持つ児童の増加で介助等に人手が必要
- 簡単な手続きでお願いできるボランティアの需要が多い



- 参加者にもお願いする側にも垣根の低いグループを
- 単なるボランティアグループとしてだけでなく、自らも学び成長できるグループを目指す
- 天王寺区のサポーターへ

” 教育・子育て・国際交流 “報告書

出水、神崎、栗谷、渋谷、田中（誠）、三木

当部会の提案の基本理念

現在の日本は、高度成長期の終着点ともいべきバブル経済が破たんし、社会全体として大きな発展が望めないと考えられる時代に入った。いわゆる一流企業でさえ先行きの見えない時代となっている。人口も減少傾向が認められはじめ、企業経営もパイを求めて海外へと進出せざるを得ない時代である。日本人が求めようと求めまいとグローバル社会が進行し、それにつれて格差社会が進行している。このような社会では、求められる人材も多様化しており、つい最近まで日本の社会が求めていたような均質で自己主張の強くない人材だけでは、社会のニーズに対応できない時代となっている。

また、学校教育の分野でも、過度な受験競争への反省からゆとり教育が行われたが、昨今では国際的な学力テストでの顕著な学力低下傾向をうけ、脱ゆとりへと舵を切っている。加えて、長年懸案でありながらも全く解決策が見いだせていないいじめ問題や、時代とともに受け止め方が変化してきている体罰に関する問題など、教育に関する種々の問題も存在している。

このような時代において、子供たちを取り巻く環境もめまぐるしく変化している。インターネット等の急速な普及に対し、情報リテラシーがついていけず多くの問題が発生している。このような現状を勘案すると、数十年前に比して、現在の子供たちは犯罪や種々のトラブルに巻き込まれる可能性が上がっていると思われる。

以上のことを鑑み、子供たちを種々のトラブルから守るとともに、社会を背負っていく力をつけるための施策を提言すべきと思われる。我々が提言する施策の基本理念は「自らの考えをしっかりと持ち、それを他人に発信できる能力。また、他者との違いを理解し、それを受け入れる能力」を持った子供を育てていく」ことである。このような能力を有した人材であれば、今後の社会の変化にも十分に対応できるであろうし、国際社会でも活躍していけるものと考えられる。また、他者との違いを認めることは、長い目で見ればいじめを減じていくことにもつながるものと信じている。

基本理念に基づいた3つの提言

- ① 小中学校での国際交流プログラム
- ② “TERAKOYA”の設置
- ③ ボランティアグループの創設

①小中学校での国際交流プログラム

基本理念でも述べたように、社会のグローバル化は今後も加速度的に進行していくことが予想される。このグローバル化は、過去に見られたような欧米を中心としたグローバル化ではなく、アジアや中東を含めたまさに全世界的なグローバル化である。もちろん共通言語としての英語の重要性は不変であることから英語や欧米の文化を学ぶことは重要であるが、英語圏以外の文化に触れることも必要であると考えられる。これらの機会を子供に提供することを目的とした。

国際交流センターは、この目的を果たす上で重要な天王寺区の資源の1つである。国際交流センターには各国の留学生や大使館関係者とのパイプがあり、国際交流に必要な人材を派遣することが可能である。また、受け入れ側の小中学校でも、国際交流の需要は十分にあると考えられる。このことから、国際交流センターが各小中学校に人材を派遣し国際交流の場を設けることは可能であると考えられる。ここで1点注意すべきは、区役所や教育行政が主導して決まった形を作るより、派遣側の国際交流センターと受け入れ側の各学校（実際は担当教諭）が自由な発想のもと議論しながらどのような形にするのかを決めていくことが重要であるということだ。関係者がともに協力して作ることで、より使いやすくより面白い制度ができていくものと期待している。

我々はこの国際交流を通して、子供たちに異文化に直接触れる機会を提供するとともに、価値観の大きな違いを体験することで他者との違いを理解し受け入れる土壌を育めるものと考えている。また、外国人に対する苦手意識を和らげる効果も期待できると考えられる。そのためにも、できるだけ体感型の授業となるように努力すべきである。

最後に経費であるが、派遣スタッフの人件費と交通費は1人につき5000円程度（時間や人材による）と考えられ、ここにその国のお土産等の体験型のための雑費が5000円程度発生するものと考えられ、派遣スタッフ数や時間数によるものの、概ね1回1万円～2万円程度の経費が必要となるものと考えられる。平成25年度は小学校8校と中学校3校の計11校が年に4回実施するとして、約66万円の経費が必要となる。このうち学校側が1回につき5千円程度の負担をすると仮定すると、約44万円の経費がかかることとなる。

②”TERAKOYA”の創設

基本理念で述べたように、“自らの考えをしっかりと持ち、それを他人に発信できる能力。また、他者との違いを理解し、それを受け入れる能力”を持った子供を育てていくことは、日本の未来のために重要であると考えられる。そのために我々は種々の学習の機会を子供や保護者に提案できる組織を設立すべきと考えた。この組織を”TERAKOYA”と呼び、ここでは色々な学習の入り口を作り、子供に色々な”本物”を経験する機会を与え、そこから各子供たちが何かに特化して学んでいくことを最終目標としている。我々は子供たちが専門分野に入る入口を提供する。そのスタートとして我々は設定されたテーマに対する意見発表とディスカッションを行う”天王寺こども討論教室”を実施することとした。また、異文化を理解するための機会の提供として、”天王寺区こども外交官会議”を実施することとした。

1つ目の”天王寺こども討論教室”では、まず子供に対して情報リテラシーの講義を行う。この講義の目的は、討論の後に子供たちがネットなどに討論相手の悪口等を書き込むことも想定されるため、議論の平等性を担保することの重要性（場外乱闘の不平等性）を伝えるとともに、相手の意見を尊重し受け入れることの重要性を伝えることである。この情報リテラシーの講義の後に、子供自身に情報リテラシーを順守する旨の書面にサインをしてもらうこととする。また、保護者にも子供たちがお互いに傷つける発言をする可能性があるが、このような経験も子供たちの情報リテラシー理解には必要であり、子供たちの成長に有意義な機会であるという考えに同意するとの趣旨の同意書にサインをいただく。なおこの同意書には、保護者は時間中も時間後も、子供たちの討論には参戦しない旨の文言も記入する予定である。

次に、同意書にサインをした子供たちに各分野の専門家が討論の内容に関する授業を行うこととする。これは自分の意見を構成するために必要な基礎知識を与えることを目的としている。もちろん、子供たちが本やインターネット等で予習することは前提であるが、その道の専門家の話を生で聞き、質疑応答を通じて意見を固めていくことも必要であると考えている。また議題によっては関連施設を実際に見学し体感してもらうことも検討している。

最後に、各自が予習してきたことを含めて意見を発表してもらい、その後可能であればディスカッションを行ってもらう予定である（子供たちの成長次第でディスカッションまで行えると考えている）。

現在のところ、予定議題としては元国連職員を招いての「国連は必要か？（国

連は世界を平和へと導いているか?)」、元プロ野球代理人弁護士を招いての「プロ野球選手の契約更改って? (弁護士の存在意義)」、刑務所を見学した上での「死刑制度について」、元銀行員を招いての「お金って汚いもの?」、大企業の社長を招いての「グローバル化について」、医師と獣医師を招いて「安楽死について」などの議論を予定している。

2つ目の”天王寺区こども外交官会議“では、「世界の貧富の差を模擬的に体験できるハンガーバンケット」や、「世界の祭りや遊びから学ぶ異文化」、「総領事夫人等による世界のお菓子」などの企画を実施する予定である。このような企画を通して、子供たちに教科書や映像ではなく、生の実体験として異文化を体験させ、自分と異なる文化に対する理解を促進させることを目的としている。

最後に経費であるが、両提案とも、開催場所は区役所の関連施設もしくは国際交流センターを使用することで、施設使用料は不必要とできる。講師の交通費と謝礼を合わせて1回5万円程度を想定しており、施設の見学時には子供の移動費用が発生する。よって、1回の経費は5～10万円程度となる。子供の負担は1回に500円とし、1回に30～40人程度募集するとして、2万円程度の収益が見込める。この差額に関しては、企業や有志の個人からの寄付金で賄うこととする。1か月に1回程度の開催を予定しており、1年で12回の開催となることから、寄付は100万円を目標とする。

③ボランティア団体の創設

天王寺区では近年マンションの建設が増加し、新しい住民が増えている。これに伴い、隣人同士の関係性が希薄化している。一方で、阪神・淡路大震災や東日本大震災など、地域の結束が求められる事態も起こっている。このような観点から、旧来とは違った新しい形の地域住民のつながり方を模索する必要があると考えられる。その1つのつながり方として、“垣根の低い”ボランティア団体の創設を提案する。

団塊の世代の退職時期を迎え、退職後に自分の能力を生かして社会のために時間を割こうという立派な考え方をもちた方も多くおられる。また、学生も社会のために時間を使いたいと考えている学生も多い(近年の学生ボランティアの多さには驚かされる)。このように身近な機会があればボランティアをしようと考えている人は多い。一方で高齢化社会が進んでいること、また核家族化が進んでいること、そして社会のニーズが多様化していることなどから、ボランティアに対する需要も潜在的にかなり量があるものと考えられる。我々が提案するのはこれらのニーズをマッチングできるような、まさしく垣根の低いボランティア団体の創設である。

このようなボランティア団体が天王寺区に存在することは、天王寺区にとって大きなメリットとなる。防災や防犯といった範囲は言うに及ばず、教育現場や天王寺区の住民の繋がりにとってもプラスに働くことが十分に想像できる。また、このボランティア団体のことを国際交流センターから留学生に周知してもらうことで留学生にも参加してもらい、ボランティアに参加することで国際交流もできるというメリットを提案することも想定している。このことで、ボランティアをする人にもメリットが生まれ、より **win-win** の関係が構築できるものと考えている。また、ボランティアの派遣を要請する側の負担を減らすために窓口を一本化し書類を簡素化するとともに、ボランティア団体の垣根を低くするためにSNS等を用いて簡単にお互いのニーズをマッチングできるようにする予定である。

この施策を実施することで、単なるボランティアではなく自らが学び互いに成長できるグループを目指すとともに、天王寺区のサポーターを増やすことが期待できる。